

令和2年貝塚市教育委員会会議
第5回臨時会会議録

令和2年8月6日開会

令和2年8月6日閉会

令和2年8月6日(木)午後1時30分
貝塚市職員会館1階多目的室

日程 番号	議案		事 件 名	備考
	種別	番号		
1			会議録署名委員の指名	
2			会期決定の件	
3	議案	30	令和3年度使用小学校教科用図書採択の件	
4	〃	31	令和3年度使用中学校教科用図書採択の件	
5	〃	32	令和2年貝塚市教育委員会会議第4回定例会会議録承認の件	

本日の会議に付した事件

1. 会議録署名委員の指名
2. 会期決定の件
3. 令和3年度使用小学校教科用図書採択の件
4. 令和3年度使用中学校教科用図書採択の件
5. 令和2年貝塚市教育委員会会議第4回定例会会議録承認の件

教育長及び出席委員

	鈴木 司郎	教育長
1 番	樽谷 栄子	教育委員会委員
2 番	西村 卓也	教育委員会委員
3 番	田中 廉久	教育委員会委員
4 番	浅田 真由美	教育委員会委員

議案説明のため出席した者

教育部長	樽谷 修一	教育部参与	浦川 英明
教育部参与兼			
スポーツ振興課長	一色 正仁	教育総務課長	山本 利恵子
学校教育課長	秦 真人	学校教育課参事	永井 隆幸
学校教育課参事	田代 邦彦	社会教育課長	西川 桂子
青少年教育課長	水本 学	中央公民館長	寺戸 俊二
図書館長	見川 直子	学校教育課主幹	赤阪 朋子
学校教育課主幹	宮脇 大貴	学校教育課主幹	松井 大祐
学校教育課指導主事	志禮 義隆	教育研究センター主幹	西原 和隆
教育研究センター			
指導主事	向山 義郎		

事務局職員出席者

山本	利恵子	教育総務課長
小牧	真也	教育総務課長補佐
植山	卓哉	教育総務課主査

午後 1 時 30 分開会

○教育長（鈴木 司郎） ただいまから、令和 2 年貝塚市教育委員会会議第 5 回臨時会を開きます。今回は新型コロナウイルスの関係で開催場所を移しております。本日の会議は、教育委員につきましてはマイクを使用いたします。説明員の方は、マイクはございませんので大きな声で発言をして下さい。

傍聴人におかれましては、聞き取りにくいところがあるかと思いますが、ご容赦ください。

本日の会議には、傍聴の申込がありますので、これを承認いたします。

傍聴人におかれましては、傍聴人規則を遵守され、静粛に傍聴されるようお願い申し上げます。

これより、事務局に本日の出席委員数及び欠席委員等の氏名の報告を求めます。

○事務局（山本 利恵子） ご報告申し上げます。出席委員は 4 名全員であります。

以上で報告を終わります。

○教育長（鈴木 司郎） ただいま報告のとおり、出席委員は 4 名をもちまして会議は成立しておりますので、ただいまから本日の会議を開きます。

これより事務局に諸般の報告を求めます。

○事務局（山本 利恵子） 諸般の報告を申し上げます。

本日開会されました令和 2 年貝塚市教育委員会会議第 5 回臨時会は、8 月 3 日付で招集告示し、本日の開議時間を午後 1 時 30 分と定めてご通知申し上げます。今回の提案事件は、議案 3 件であります。

なお、本日の議事説明員として、出席を求めた事務局の職員の職氏名は、プリントしてお手許へ配付いたしているとおりであります。

以上で報告を終わります。

○教育長（鈴木 司郎） これより日程審議に入ります。日程第 1、会議録署名委員の指名をおこないます。会議録署名委員は会議規則第 54 条の規定により、2 番 西村 卓也 委員、4 番 浅田 真由美 委員を指名いたします。

○教育長（鈴木 司郎） 次に日程第 2、会期決定の件を議題といたします。今回の会期は招集日の 1 日に決定してご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって会期は 1 日に決定いたしました。

○教育長（鈴木 司郎） 次に日程第 3、議案第 30 号 令和 3 年度使用小学校教科用図書採択の件を議題といたします。

議案第 30 号 令和 3 年度使用小学校教科用図書採択の件

○教育長（鈴木 司郎） これより議案の説明を求めます。浦川 英明 教育部参与。

○教育部参与（浦川 英明） 本件について、ご説明申し上げます。

小学校の令和 3 年度使用教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条、同法施行令第 15 条の規定及び令和 2 年 3 月 27 日付文部科学省初等中等教育局教科書課長より通知された元初教科第 39 号「令和 3 年度使用教科用図書の採択事務処理について」により、4 年間使用するものと定められていることから、令和 2 年度と同一の教科書を採択することとなっております。

従いまして、議案書の一覧表に記載しております教科用図書を採択しようとするものであります。

以上のとおりでありますので、何卒よろしくご審議のうえ、議案書の一覧表の教科用図書の採択をお願い申し上げます。

○教育長（鈴木 司郎） 議案の説明が終わりました。

ただいまから質疑に入ります。浅田 真由美 委員。

○委員（浅田 真由美） 現在使用しております教科書について、現場の先生から何か意見等ありまし

たら、教えて下さい。

○教育長（鈴木 司郎） 秦 真人 学校教育課長。

○学校教育課長（秦 真人） この間、学校の方へ確認を取っておりますが、問題があるということは特に聞いておりません。

○教育長（鈴木 司郎） 他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑はないものと認めます。

これよりご意見を伺います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見もないようですので、これより採決いたします。

本案を可決することに、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって本案は可決されました。

○教育長（鈴木 司郎） 次に日程第4、議案第31号 令和3年度使用中学校教科用図書採択の件を議題といたします。

議案第31号 令和3年度使用中学校教科用図書採択の件

○教育長（鈴木 司郎） これより議案の説明を求めます。 浦川 英明 教育部参与。

○教育部参与（浦川 英明） 本件について、ご説明申し上げます。

中学校の令和3年度使用教科用図書につきましては、4月の教育委員会会議第2回臨時会で、ご承認いただきました、令和2年度貝塚市立小学校中学校教科用図書選定委員会に、中学校教科用図書の選定について、諮問を行ったところであります。7月22日調査員による調査研究報告を受け、意見具申をまとめました。審議の際に、詳細は担当者からご説明申し上げますが、私から、まず全体についてご説明いたします。

次期学習指導要領は平成29年3月に告示されました。

中央教育審議会答申においては、これまでの学習指導要領の改訂の中心であった「何を学ぶか」という学習内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えて学習指導要領等を改善することを求めるとともに、育成すべき資質・能力を①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、の三つの柱に整理されました。

これを受け、教科書についても、今回の学習指導要領の改訂の趣旨を十分に踏まえた物となるように改善していくことが必要であり、学習指導要領における記述を踏まえ、平成29年5月23日に、検定審議会において「教科書の改善について（報告）」（以下「平成29年報告」という。）が取りまとめられました。

その中では

（1）教科共通の条件での改善

- ・資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った改善
- ・「発展的な学習内容」の規定の見直し
- ・「引用資料」に関する規定の見直し

（2）教科固有の条件での改善

- ・外国語科における規定の見直し
- ・社会科、地理歴史科及び公民科における規定の見直し
- ・理科における規定の見直し
- ・小学校におけるプログラミング教育に関する規定の新設
- ・その他高等学校の教科固有の条件の見直し等

(3) 学習指導要領改訂を反映した教科書づくり
と示されています。

これらのことを充分考慮し、貝塚市の生徒に合う教科書の意見具申をさせていただくこととなりました。

以上のとおりでありますので、何卒よろしくご審議の上、議案書の一覧表の教科用図書の候補図書より一者の採択を、お願い申し上げます。

○教育長（鈴木 司郎） 議案の説明が終わりました。

ただいまから、令和3年度から使用の中学校各教科用図書の採択について審議を行います。

令和3年度からの中学校教科用図書の選定にあたり、選定委員会を設置して詳細に調査していただくとともに、4名の教育委員もすべての教科書見本をチェックしてまいりました。

多くの教科書会社があり、それぞれにすぐれたところがあり、選定委員会でも色々な意見が出たとお聞きしています。

今日ここに選定委員会の具申書の提出をうけて、その内容と教育委員の皆様の意見を集約して、貝塚市中学校の生徒の実態に最も適した教科書を採択したいと思っておりますので、慎重に審議いただきますようお願いいたします。

進行につきましては、科目ごとに選定委員会の意見具申を担当指導主事から受け、その後に委員各位からの質疑、意見を経て、採決をとるという事で進めていきたいと思っております。よろしいでしょうか。

それでは国語から始めたいと思っております。まず、意見具申をお聞かせください。志禮 義隆 学校教育課指導主事。

○学校教育課指導主事（志禮 義隆） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、日常生活での『言葉の力』に関するつまずきを漫画にすることで、主体的に課題を発見できるように工夫されている。教科書に登場する6人の生徒とコトハというキャラクターの対話場面が多く、生徒が考えやすくなるように工夫されている。古典教材が充実しており、作品の全体像や背景を伝える資料が扱われているだけでなく、資料編には学習を深めるために様々な作品が扱われている。

三省堂は、『グループディスカッション』が設定されており、話し合いの方法やコツ等について系統性を意識して配列しているため、どのように話をすればよいか分かりやすくなっている。古典教材の現代語訳で、色覚の特性による見え方の差がないよう、青い色を用いる等の工夫がされている。漢文教材では、返り点が上下点まで示されており、指導内容がわかりやすくなっているだけでなく、デジタルコンテンツでは学習を深めるために様々な作品が扱われている。

光村図書出版は、3年間を通して、相手の思いや考えを引き出すために主体的に聞く力を育み、対話的な学びの基礎づくりができるように工夫されている。資料や図表などから情報を読み解くだけでなく、集めた情報を活用したり、書いたりする活動が多く設定され、実生活でも生かすことができるように工夫されている。言葉の学習では「～に生かす」、書く学習では「つなぐ」が設定されており、国語科の学習と実生活が結びつくようになっている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、三省堂、光村図書出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） 以上に関して、選定委員会の意見具申を担当指導主事から報告いただきました。

まず、委員各位からの質疑をいただきたいと思います。西村 卓也 委員。

○委員（西村 卓也） 教室内のデジタル化が今後進んでくると思うのですが、その中で、例えばQRコード等の設定で3者、何か特徴があれば教えて下さい。

○教育長（鈴木 司郎） 志禮 義隆 学校教育課指導主事。

○学校教育課指導主事（志禮 義隆） デジタルコンテンツも使える教科書というのは、東京書籍または光村図書出版が挙げられると考えております。

東京書籍では、古典教材であるとか漢文教材等の朗読がデジタルコンテンツにより聞くことができ

るといふ部分があります。また、ワークシートも充実しております。

光村図書出版では、同じように古典教材、漢文教材の朗読があるだけでなく、物語においても作者、筆者等のインタビュー動画を観ることができまして、それぞれの作品に込めた思いや、作者、筆者から生徒たちに対するメッセージ等の映像を視聴することができるようになっております。

- 教育長（鈴木 司郎） 他にございませんか。それでは私の方から、特に今回、国語の教科で新しい学習指導要領で重視されているポイントを教えて下さい。志禮 義隆 学校教育課指導主事。
- 学校教育課指導主事（志禮 義隆） 急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体から必要な情報を取り出すだけでなく、その情報を整理し、整理したものを使って発信するという力を育むということが、今回の学習指導用要領の改訂されているポイントとなっております。
- 教育長（鈴木 司郎） その点で、この教科書が使いやすいな、使ったら力が付くのではないかというポイントがあれば教えて下さい。志禮 義隆 学校教育課指導主事。
- 学校教育課指導主事（志禮 義隆） そのポイントについてですが、3者ともに書く教材、話す聞く教材等で情報を収集したり整理したりするというものは示されておりますが、三省堂または光村図書出版では、教科書の中でも「情報」という単元が設定されておりますので、そこで子どもたちにもしっかり学びが深められるようになっております。特に、光村図書出版では、それだけではなく、メディアの特性や情報の信頼性を確かめる方法を学ぶといったことであったり、同じテーマでも2人の書き手によってどのように違いが起こるのかという多様性を知るような学習も含まれております。
- 教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑はないものと認めます。

これよりご意見を伺います。西村 卓也 委員。

- 委員（西村 卓也） 今、色々お話を聞かせていただきまして、3者とも例えば夏井いつきが出てきたりとか、色々有名な作家の先生や人物が登場していて、色々工夫しているなと思いました。今、お聞きして、学習をしやすくQRコードであるとか、そういうもののコンテンツ等を利用して授業が進みやすいという所でいくと、光村図書を私は推薦をしたいと思えます。
- 教育長（鈴木 司郎） 他にございませんでしょうか。

それでは、私も、今、西村 卓也 委員がおっしゃった光村図書を推薦したいと考えております。特に、日本の子どもたちが課題であると言われているOECDの調査の中でありました、非連続テキストの読み取りをどうするのかという部分につきましても、光村図書で学習するとかなり力が付くのではないかなというように見せていただきました。デジタルコンテンツも充実していること、めあて、目標、ふり返り、その辺りの主体的、多様な深い学びを進めていく上でも、この教科書を使って実力を子どもたちが付けてもらえるのではないかなと思えますので、光村図書出版が貝塚の子どもに相応しいのではないかなと思えます。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

国語に関しましては、当市は、光村図書出版の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって国語に関しましては、当市は、光村図書出版の教科書を採択することに決定いたしました。

次の教科に移ります。次は書写といたします。意見具申をお聞かせください。赤阪 朋子 学校教育課主幹。

- 学校教育課主幹（赤阪 朋子） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、学習のふり返りを交流する形になっており、対話的な学習にもつなげられるよう工夫がなされている。毛筆で練習する際に、作品手本に書くときのポイントが示されていて、分かりやすい。各学年ともに、『～の書き方を確かめよう』『～の書き方を学ぼう』『生活に広げよう』のように段階的に学習でき、学習した内容を日常生活に応用することができるような工夫がなされている。

三省堂は、めあてと学習のふり返りが単元ごとに設けられており、効果的な指導が行えるよう工夫がなされている。貝塚の看板職人の方が載っているため、生徒の興味・関心を高め、主体的な学習への働きかけ、職業観を養うこともできる。『書いて身につけよう』のページでは都道府県名や教科名のなぞり書き、『資料編』では時候の挨拶の例が示されており、日常生活に生かされるよう工夫がされている。

教育出版は、ふり返りの項目が具体的で分かりやすいため、生徒が自身の学習をふり返りやすく、考えをまとめる活動ができるため、教師も指導と評価が行いやすい。学習する際にも、どのような力が身につくかがイラストで分かりやすく示されており、生徒が主体的に学習へと向える工夫がなされている。既習の古典作品などの一文を硬筆で練習するページがあり、ワークシートとして活用でき、現代語訳もあり生徒が意欲的に学習できるようになっている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、三省堂、教育出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） 議案の説明が終わりました。ただいまから質疑に入ります。

まず、私の方から。この3者のうちで、書写、習字の時間は少ないからこそ指導と評価を1時間の中で一体化して確立していくということが大切であると思います。そういう点で、学校として使いやすい教科書はどれになると考えますか。赤阪 朋子 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（赤阪 朋子） どの教科書も、指導と評価の一体化を意識して、めあてとふり返りが単元毎に設けられておりました。特にふり返りには特徴がありました。

東京書籍は、先程の具申書にもありましたが、指導要領の「どのように学ぶか」を意識した、対話的な学習の、理解したことを説明しよう、話し合おうという形で、学びの気づきをまとめる活動ができます。

三省堂は、書写が国語科の知識技能の力を付ける指導項目となっていることを意識して、何々できたか、と言うふり返りになっています。

教育出版は、これらの両方ができるような工程がなされているため、教員は指導がしやすく、ふり返りは子どもたち自身が、自分の理解度や技能の定着具合を自己採点できる項目があり、ふり返りの観点が具体的に示されているため、生徒も教員も評価しやすくなっています。これらの点から教育出版が優れていると感じます。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑もないようですので、ご意見を伺いたいと思います。浅田 真由美 委員。

○委員（浅田 真由美） 三省堂の教科書には、貝塚の看板職人の方が掲載されていました。手書きで看板に文字を書き入れるという職人技の素晴らしさに、文字を扱う職業観を養うことができると思いました。東京書籍と教育出版は、ICT活用でお手本動画が真上から撮影されていて、とても見やすく工夫がされていました。子どもたちは、主体的に学ぶことができるかなと思いました。各者、学習の進め方では、目標からふり返りまで設定されていたので、わかりやすくまとめられていました。

特に教育出版の「ふり返ろう」には、チェック項目がありましたので、主体的な活動を進めることができる点から、私は教育出版を推薦したいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） 私も見せていただきましたが、今、浅田 真由美 委員がおっしゃったような点、それから教科書を見開きにした時に、右側のページに手本がある。これは手本を左側に置きますので、やはり右側のページにあるということが意外と使いやすいという点もあります。先程の動画やふり返り、子どもたちが主体的に学んでいくという点でも、この教育出版の教科書を使うことが相応しいと考えます。他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

書写に関しましては、当市は、教育出版の教科書を採用することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって書写に関しましては、当市は、教育出版の教科書を採用することに決定いたしました。

次に社会科地理に移ります。意見具申をお聞かせください。永井 隆幸 学校教育課参事。

○学校教育課参事（永井 隆幸） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が積極的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

教育出版は、1つの日本地図内に、都道府県名と県庁所在地名がともに掲載されており、授業で取り扱いやすく、生徒が自習する上でも活用しやすい構成となっている。州や地方ごとに写真が多数掲載されているため、視覚的にイメージしやすい。世界地図の3つの図法名が示されているとともに、『世界の略地図を書いてみよう』では、書き方のポイントが示されているので作業しやすい。

帝国書院は、巻頭に『この教科書の学習のしかた』のページが設けられ、「主体的・対話的で深い学び」につながる学習の流れと教科書の活用方法が掲載されている。災害に対する取扱いページ数が6ページと4者の中で最も多く、南海トラフについても扱われている。世界の気候を学ぶ学習では、それぞれの気候に対する雨温図が一覧として示されている。

日本文教出版は、三重県がどの地方に含まれるのか、コラムを設けて紹介している。近畿地方についての重要語句数が最も多い。『世界の諸地域』、『日本の諸地域』では、節ごとのまとめのページに学習した用語が観点に沿って整理されており、確実な習得を図ることができる。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、教育出版、帝国書院、日本文教出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） 議案の説明が終わりました。

ただいまから質疑に入ります。

それでは、私の方から、まずSDGs、持続可能な社会についてどの教科書が使いやすいか教えてください。永井 隆幸 学校教育課参事。

○学校教育課参事（永井 隆幸） SDGsについては、各者とも取扱いがあります。但し、教育出版と帝国書院は、巻頭に掲載されており、主体的に現在の世界や日本の課題を読み解いたり追求したりする学習展開になるように工夫されています。さらに、帝国書院は、SDGsを意識した特設ページ「地域のあり方を考える」を掲載する等、社会に見られる課題の解決に向け、生徒が主体的に考えていくことができる工夫がなされていました。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ご意見を伺います。浅田 真由美 委員。

○委員（浅田 真由美） 私は帝国書院を推薦します。主体的な学びのために、学習の見通し、ふり返りの流れが詳しく書かれていてわかりやすかったです。地域のより良い発展を目指し、持続可能な社会を作るためにコラム「未来に向けて」では、防災、環境、情勢への意識が高まる取組みがたくさん掲載されていました。南海トラフの巨大地震が起きた際に発生すると想定されている津波の高さの資料がありまして、将来の社会が直面するかもしれない課題について、災害時にどのような行動をすべきかを自主的、多様な学びができるように思いました。もう一点、世界の様々な気候の写真、それに伴う雨温図の一覧とQRコードが連携していましたので、自宅学習で復習する際にイメージができ、理解がしやすいと思いました。このような点から、帝国書院を推薦したいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） 先程、浅田 真由美 委員のご意見にもありました、今回色々な教科書で持続可能な社会に向けたSDGsのことというのはかなり取扱いが多くなっておりまして、非常に重要な視点になるのではないかなと考えております。これからの未来に生きる子どもたちが、これからの社会を自分たちで作っていくという点で、中学生がしっかりと色々な教科で自分の考え、これからの社会をどう生きていくのか考える、ということでは、帝国書院の教科書が使いやすいのかなと思います。あと、先程からありますように、近年の災害が非常に多発している中で、防災という視点でも日本文教出版、帝国書院、このあたりはかなり詳しく書かれているなと感じました。主体的、対話的に現在の課題に子どもたちがしっかり向き合っていける地理的な分野の教科書としては、帝国書院が貝塚の子どもたちには良いのではないかなと思います。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

社会科地理に関しましては、当市は、帝国書院の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって社会科地理に関しましては、当市は、帝国書院の教科書を採択することに決定いたしました。

次に社会科歴史に移ります。意見具申をお聞かせください。宮脇 大貴 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（宮脇 大貴） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が積極的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、新学習指導要領で明示されている「見方・考え方」について、見開きのページ内に、時系列・比較・つながりなどの視点が示されている。各章末に、「まとめの活動」として、知識の定着だけでなく、さまざまな視点から、思考力・判断力・表現力を生かすページがある。各ページにある「みんなでチャレンジ」では、対話を軸としたグループで取り組む課題が示されている。

帝国書院は、人権に関するコラムが17項目、女性の立場に関する記述もあり詳しく説明されている。コラム（環境・世界との交流・人権・平和）が豊富にあったり、わかりにくい用語や概念に関する説明が側注欄に丁寧に示されたりしている。章・節・小單元ごとに「学習課題」が設定され、まとめ活動もある中で、話し合い活動やまとめ活動も設定されている。

日本文教出版は、現代の人権課題の歴史的経緯が本文やコラムを通じて詳しく取り上げられている。琉球・アイヌについて、資料を交えて詳しく取り上げられている。発展的な学習として「チャレンジ歴史」という項目があり、資料の読み取りや情報の整理が教科書中にできるよう工夫されている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、帝国書院、日本文教出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは、質疑に移ります。

まず3者の推薦の中に、現在使っている教育出版の教科書が含まれていないのですが、今回の3者の推薦には含まれなかったことについて説明いただきたいと思います。宮脇 大貴 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（宮脇 大貴） 教育出版の教科書もとても良い内容となっております。しかし、今回の学習指導要領の改訂のポイントである歴史について考察する力や、説明する力の育成についての内容や歴史的な見方や考え方のページの充実という点から今回推薦の3者の教科書を推薦することといたしました。特に、部落問題学習について、具体的には水平社についての記述について今回推薦いたしました3者の内容がより充実していたためです。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。樽谷 栄子 委員。

○委員（樽谷 栄子） この3者とも読ませていただき、3者とも良かったのですが、対話的な学習や、まとめ、ふり返りがすごくしやすく、歴史的な見方、考え方が含まれているので、子どもたちもすごく興味を示すのではないかなと思います。私は東京書籍が良いと思いました。

○教育長（鈴木 司郎） 歴史の教科書につきましては、やはり貝塚では特に部落問題学習ということにつきましても、しっかりきっちりやるという位置付けをしております。その辺りを考えますと、河原者の記述、身分制度、水平社、そのようなことにつきまして一番丁寧に記載されていたのが東京書籍です。水平社につきましても、しっかり見開き2ページで書いていただいております。この辺りになると、どうしても時間がなくなってくるのですが、ここで最後しっかりと学んでおくことが差別を許さない貝塚の子どもたちを育む上で非常に重要であると思いますので、この点でも良いと思います。もう一点は、主体的に子どもたちが歴史的な課題を整理していくと、そして考えるという点で今回東京書籍の教科書の中に「シンキングツール」というのが出て参ります。これは、筑波などではかなり使われていますし、この辺りでは関西大学の初等教育部でもミューズ学習ということでかなり徹底的に取り上げられて、子どもたちが情報を整理する力を図にして表すということが行われております。私もそれについても研究いたしました。そういうことをして子どもたちが自分の頭をきちんと整理していくというのはこれからのプログラミング教育や情報教育にも繋がってくる。歴史をしっかりと自分の中で整理していく視点で大切だと思いますので、東京書籍を使ってしっかり子どもたちに考え

てもらいたいと思います。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

社会科歴史に関しましては、当市は、東京書籍の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって社会科歴史に関しましては、当市は、東京書籍の教科書を採択することに決定いたしました。

次に社会科公民に移ります。意見具申をお聞かせください。宮脇 大貴 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（宮脇 大貴） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が積極的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、『ちがいのちがいの』で身近な事例から人権について考えさせ、インクルージョンについて考える活動が示されている。各単元では「導入部」、「展開部」、「終結部」の形で単元の流れをとらえやすくしている。「分野関連マーク」を読み取ると、特に関連の強い内容が表示されて再確認することができる。

帝国書院は、『未来に向けて人権』が6カ所設置されていて、人権に関する課題の解決に向けた取り組みが紹介されている。『技能をみがく』では、生活の具体例から社会の仕組みを考えることができる。また、KJ法などの手法も取り入れており、技能をみがく取り組みがされている。防災備蓄倉庫の新設について話し合う活動を通して、防災意識を育む工夫がされている。

日本文教出版は、人工知能や18歳選挙権など、学習指導要領の改訂において変更があった新しい内容項目について、分かりやすい図や説明文を使って取り上げられている。また、琉球・アイヌについて、資料を交えて詳しく取り上げられている。本文で身につけた技能や知識を生かして、生徒自らが考え・判断する課題が用意されている。ただ読み取るだけでなく、必要な情報を必要な量だけを取り出して課題解決に向かう技能を育てる課題が用意されている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、帝国書院、日本文教出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは質疑に入ります。西村 卓也 委員。

○委員（西村 卓也） ほぼこの3者においては、遜色のない内容だと思いますが、生徒に興味を持たせて、先生が授業を進めやすいという点で推薦できるところはありますか。

○教育長（鈴木 司郎） 宮脇 大貴 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（宮脇 大貴） 3者とも見開き2ページに学習内容がまとまっているという点ではとても良くできております。その中でも、日本文教出版の教科書には、単元で学んだことを使って、提示された資料、図、グラフ、そういったものを自分たちで考える活動、またそれを使い説明する活動ができる仕組みが多数掲載されております。そういったところから資料の活用の課題を皆で話し合ったり、主体的、対話的で深い学びに繋がっていきます。また、自学自習を行う時でも、それらの資料は自分の考えをまとめたり、広げたりするためのツールとして活用できると考えております。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。西村 卓也 委員。

○委員（西村 卓也） 先程申したように、3者とも内容的には問題はないのですが、授業の進みやすさ、この公民にいかに興味を持たせるか、集中させるかということが大事だと思いますので、先程おっしゃってました日本文教出版を推薦したいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） その日本文教出版についてですが、先程内に出てきている2点、1つ目はSDGs 持続可能性社会について、これについて3者の中、調べましたところ日本文教出版が一番きちんと書かれていました。特集ページについても膨大で、「持続可能な社会を目指して」という章のタイトルもきちんと描かれている。そういう面では、貝塚で今後大切にしていこうという視点については使いやすいと思います。もう1つは、先程、歴史でも出てきました「シンキングツール」なのですが、

これも歴史では東京書籍で使われていたのですが、公民は日本文教出版が使っている。そういう面でも、2つの教科書を本市では交互に学習していきますので、2つの教科書を使うことで、ある一定の同じリズムで学習していくのには、この2つを使うことで大切にしたい力がうまく繋がっていくと考えます。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

社会科公民に関しましては、当市は、日本文教出版の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって社会科公民に関しましては、当市は、日本文教出版の教科書を採択することに決定いたしました。

次に社会科地図に移ります。意見具申をお聞かせください。永井 隆幸 学校教育課参事。

○学校教育課参事（永井 隆幸） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が積極的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、巻頭に、「持続可能な開発目標（SDG s）」の17のゴールが示されており、現代的な諸課題を捉え、課題解決に向けて考えていくことができる。『ピックアップTOKYO』として、見開き1ページで東京についての特集記事が生まれ、東京オリンピック・パラリンピックの会場を掲載した地図や関連する写真・資料が掲載されている。随所に挿入されている『ジャンプ』によって、関連した項目を参照することができ、補充的な学習に活用できる。

帝国書院は、近畿地方に関連する内容を取り扱っているページ数の割合が高い。地図の色づかいが鮮やかで見やすく、標高により濃い茶色と薄い茶色に色分けされているため、地形を立体的に捉えやすい。余白部分に、『地図活用』と題して学習課題が提示されており、主体的に学習を進められるような工夫がなされている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、帝国書院の2者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） 出版が2者ですので、この2者のうちどちらかで決めたいと思います。

それでは、質疑に入ります。

今回、タブレットが今年度中に入ってくるということがあります。それで、地図や美術の教科書のようなものは今後、形がかなりそちらとの連携で、使い方も含め変わってくるのではないかなと思っておりますが、タブレットの有効活用という辺りにつきまして、地図として使いやすいのはどちらですか。永井 隆幸 学校教育課参事。

○学校教育課参事（永井 隆幸） 東京書籍、帝国書院ともにどちらにも2次元コードは掲載されております。ただし、東京書籍の方は、コード自体がどこにあるのか場所がわかりにくく、せっかくの情報に生徒が辿りつけないという可能性が懸念されます。一方、帝国書院は、地域ごとにわかりやすく2次元コードが掲載されており、補充教材として有効活用することができるような構成になっていると感じました。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。浅田 真由美 委員。

○委員（浅田 真由美） 東京書籍は、裏表紙のバーコードにデザインバーコードが使用されていました。すごく細かい配慮がされているなど感じました。巻頭に先程説明にありました、持続可能な開発目標の一覧が掲載されていますので、自分にできることを考えて、主体的に学びができるなど思いました。

帝国書院は、サイズが大きくなりまして、カラーユニバーサルデザイン仕様で、すごくグラフが見やすかったです。予測しにくい地震や自然災害についても詳しく掲載されていました。地図活用として、社会的な見方や考え方を働かせる問いがありました。これを用いて、主体的、対話的で深い学びに繋がる学習がしやすいと思いました。以上のことから、帝国書院を推薦したいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） それでは、私の方から。SDGsについては東京書籍にはあるが、帝国書院の地図にはないです。この辺り、教科書と一体化して使うという意味では、教育委員会の事務局の方も、SDGsについての意識というのを帝国書院の地図を使うということでは十分考えていただきたいと思います。ただ、全体的に地図の見やすさ、子どもたちがどちらの地図が見やすいかという点で見た時には、やはり地図としては帝国書院の地図の方が、子どもたちには見やすいだろうと思います。あと、QRコードにつきましても、帝国書院の地図はそのページ上のところにありますが、東京書籍は最初の所にあつて、東京書籍のQRコードは、すべての教科書が一覧表になっています。それが東京書籍は、たくさんの資料がその中にすべての教科で入っています。ですから、資料も豊富で、QRコードから行ったら子どもたちは、非常に色々な教科で自学自習していくというのには東京書籍のQRコードというのはとても良いと思うのですが、授業の中でどう使っていくのかという視点で見ると、子どもたちが違うページを見ているといったことも考えられ、非常に難しい。この辺りは、QRコードというのは諸刃の剣であろうという見方をしております。今回、その辺りも研究していきながら使っていく、次の採択に繋げていきたいと思いますが、今回につきましては、そのページからずっと入っていく、地図ではそういう使い方をするということで、帝国書院の地図を使って、QRコードを使いながら、子どもたちの地理的な視野を広めていくという使い方を貝塚市ではしていきたいと思ひます。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

社会科地図に関しましては、当市は、帝国書院の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よつて社会科地図に関しましては、当市は、帝国書院の教科書を採択することに決定いたしました。

次に数学に移ります。意見具申をお聞かせください。西原 和隆 教育研究センター主幹。

○教育研究センター主幹（西原 和隆） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が積極的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

啓林館は、『みんなで学ぼう編（本編）』と『自分から学ぼう編』で構成されており、どちらも多様なレベルの問題が掲載されており、主体的な学びにつなげやすい。章末問題『学びをたしかめよう』『学びを身につけよう』は、習熟度別授業にも対応したレベルの問題になっており、ふりかえりがしやすい構成となっている。『数学ライブラリー』というコーナーにおいて、学習した内容と日常生活を結びつけるコラムが掲載されており、深い学びにつなげる工夫がなされている。

数研出版は、教科書の問題量が多く、基礎・基本の定着を重視しながら、生徒の知識・技能を大切にしている内容となっている。問題提起や思考を促す場面では、対話形式の表現が多く取り入れられているため、生徒の思考力・判断力・表現力の育成がしやすい構成となっている。各章の最後と巻末に基本問題、標準問題、発展問題が配置されており、それら全てに解答例が掲載されているため、主体的に学びやすいつくりになっている。

日本文教出版は、教科書の見開き2ページで1時間の授業に対応しているため、授業者にとって授業の計画が立てやすくなつている。道徳教育との関連記事や数学を活かして働く人のコラムなど、教科横断的な内容の取扱いが多いため、数学を通して生き方を学ぶことができる。各学年、巻末に『対話シート』が4枚ついており、共同学習等で扱いやすい課題になっているため、対話的な学びが展開しやすくなつている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よつて、啓林館、数研出版、日本文教出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは、議案の説明が終わりましたので、質疑に入ります。

それでは、1つ聞かせて下さい。1つは、貝塚市の方では、東京大学に居られました市川 伸一先生と「教えて考えさせる授業」ということで、何を教え、そしてそこから理解をどう深化させていくのかという授業についての研究を進めております。そういう点で、教えること、そして考えさせるこ

とをうまくバランスよく扱われている教科書、そしてもう1つは、数学だけではなく実生活と繋げていく、これもとても大切なことだと考えております。このような点において3者で、この教科書のこの部分が良いなという所があれば教えて下さい。西原 和隆 教育研究センター主幹。

○教育研究センター主幹（西原 和隆） まず、主体的、対話的で深い学びをするために、教えることと考えさせることについてバランスよく扱われているかどうかという点では、どの教科書においてもそのような作りになっていました。各者、形は様々ではあるのですが、学習する際の目標やめあてがしっかり明示されており、多様な考え方が出やすいような構成となっております。また、新学習指導要領の中では、学びを人生、社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養というのが、この新しい時代に必要となる資質能力の1つであると言われておられて、そういった意味で数学と実生活を結び付けるのが大事なのですが、特に啓林館につきまして、全ての章ではないのですが、学習している内容に関する数学のコラム「数学ライブラリー」として掲載されておりました。巻末ではない、学習している間に「数学ライブラリー」があることによって、数学と実生活がより結びつきやすい構成であると思います。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。浅田 真由美 委員。

○委員（浅田 真由美） 私も、どの出版者も新学習指導要領の指針に沿って、主体的に学びやすい内容になっているなと思いました。今回、啓林館は学んだ事柄を理解して問題を解くだけでなく、自分から問題を生み出す力、日常の生活の色々な場面で役立つ数学的な見方、考え方、表現する力を身に着けようと主体的、対話的な深い学びに繋がる仕掛けになっていました。子どもたちにとって、面白い、楽しいと取り組めるように思いました。また、教科書の裏の表紙から始まる「自分から学ぼう編」では、基本的な問題から発展的な問題、過去の入試問題までありましたので、子どもたちが自分から主体的に学ぶことができる工夫がされていると思いました。自分でしっかり考えて分かった、できたという喜びを感じてほしいです。

もう一点、ノート書き方について各者詳しく掲載されておりました。計算の途中の式の書き方や、意見を書く場面等設定されておりましたので、子どもたちの思考力、表現力、判断力を伸ばす工夫がされておりました。子どもたちには、ノートは答えを書くだけではなく、問題や途中の式も書くことが大事であるということをしっかり理解してほしいです。

このような点から、私は啓林館を推薦したいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） それでは、啓林館の教科書についてですが、先程来ありましたように、実生活と数学をどう結びつけていくのかというのは、子どもたちにとって数学が机上のものではないという点でも、数学がどのように社会の中で生きていくのかという点でも非常に大切なポイントであります。今回の新学習指導要領の、学びを人生、社会に生かそうとするという点でも、先程来あったように、とても大切ですので、そういう点でも啓林館の今回の教科書のというのは、非常に良くできていると思っています。また、この教科書、前から使っていくと、普通に授業ができるし、向きを変えて後ろから使うと自分で自学自習ができるようになっている。今回、初めて見たなというような面白い作りになっています。これを使って、子どもたちが自分で勉強する時、そして皆で一斉に勉強する時にうまく活用していけば、非常に子どもたちの力を伸ばすのに相応しい教科書になるのではないかなと思いますので、前々回はここの3者のうちの数研出版を使っておられて、前は日本文教出版を使っておりましたが、今回は啓林館を使って子どもたちの力を伸ばすことを行っていきたいと思っています。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

数学に関しましては、当市は、啓林館の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって数学に関しましては、当市は、啓林館の教科書を採択することに決定いたしました。

次に理科に移ります。意見具申をお聞かせください。松井 大祐 学校教育課主幹。

- 学校教育課主幹（松井 大祐） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、実験の説明では、イラストではなく実物の写真のため、イメージしやすい。また、実験で使用する薬品の分量が非常に細かく指示されている。教科書のサイズがA4スリム判で、見やすく持ちやすい。また、ICT機器が活用できるように、ポイントごとに「Dマーク」がつけられているので、復習で生徒が活用できる。単元末の『科学の本だな』では、単元に沿った科学に関する書籍の紹介があり、興味関心がある生徒は、より効果的に学習することができる。

大日本図書は、単元の最初のページが大きな写真であり、全体の見通しをもたせる部分が簡潔にまとめられており、教科書を見やすくする配慮がある。単元末問題では、基礎から入試を意識した内容も含まれ、理解度の向上につながっている。また、日常生活において理科の有用性が感じられる掲載がある。Webコンテンツがあり、対応するページにマークがついている。

啓林館は、写真が大きく、詳細な部分まで拡大して記載されている。また、図やイラストは上部に配置され、非常に見やすい。科学コラムの中では、「部活ラボ」「お仕事ラボ」「お料理ラボ」「深めるラボ」と実生活との関連がわかりやすくなっており、理科の有用性を感じられるようになっている。QRコードがついており、その単元の実験動画をインターネットで学習することができる。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、大日本図書、啓林館の3者を推薦いたします。

- 教育長（鈴木 司郎） それでは、ただいまから質疑に入ります。田中 廉久 委員。
- 委員（田中 廉久） 私も各者、理科の教科書を読ませていただいたのですが、実験や観察は非常に多く、準備や後片付けの時間を含め、1年間で子どもたちは習得できるのかなと思いますが、いかがですか。
- 教育長（鈴木 司郎） 松井 大祐 学校教育課主幹。
- 学校教育課主幹（松井 大祐） やはり、理科においては実験を通して発見や疑問に気が付いて、その疑問を解決するということが必要になると考えます。3者ともイラストや写真等を通じて様々な実験が掲載されておりました。中でも特に東京書籍におきましては、写真が実験で使用されていて、非常にわかりやすくなっております。加えて、そこで実験で使用する試薬や粉末等の必要な分量が詳細に記載されているという部分で、目安があれば子どもが取り組みやすく、また具体的に指示もしやすいという意味で、実験での時間も確保できるということと、具体的な数値がある方が取り組みやすい結果、協働的な学習へと取り組みを進めることが可能ではないかと考えております。
- 教育長（鈴木 司郎） SDGsについて、この理科でも環境ということでは大切だと思います。持続可能性社会を作る上での環境という部分で、この3者での取り扱いはどのような感じですか。松井 大祐 学校教育課主幹。
- 学校教育課主幹（松井 大祐） 今回、3者ともSDGsに関しては、取り扱われており、具体的に3年生の教科書の最終部分「終章」という形で、持続可能な社会を目指してという内容での記載がされておりました。ウェブコンテンツ等も各者とも用意されております。特に、東京書籍におきましては、動画のコンテンツの部分で、理科に関することだけではなく、SDGsに関する記載のある技術・家庭や公民の教科書等へのリンクが貼られており、理科という分野だけでなく教科横断的にSDGsについて考えることができるようになってきていると考えます。また、見開き等でもSDGsの記載がされており、東京書籍は大変詳しく記載されていると感じております。
- 教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。田中 廉久 委員。

- 委員（田中 廉久） 理科や科学、サイエンスと各者名称が違いますが、その中で私は「新しい科学」の東京書籍を推薦します。理由は、第一に実験や観察について、これは理科では一番大事なことだと思いますが、注意の文字を赤字で示し、生徒への安全面に配慮がされていると感じました。そして実験や観察において、具体的な数字で以って準備するものが非常に細かく指示されていて効率的だと思います。

ます。それと、実際に実験を行うにあたり、文字も太文字で書かれていたり、実物の写真もあり非常にわかりやすいです。二つ目の理由としましては、各単元末で、「学習内容の整理」確かめと応用でふり返ることができる、これも良いことだと思います。第三の理由としまして、学び方や見方、考え方について先生のキャラクターがヒントを示す等して、よく工夫されていると思います。そういう流れが私にとって非常にわかりやすかったと思います。

以上の理由で、東京書籍の「新しい科学」を推薦します。

- 教育長（鈴木 司郎） 今、東京書籍というご意見をいただきました。実験がしやすいという点では、東京書籍が良いのかなと思います。あと、この3者は形が違うということになっております。東京書籍は縦に長い教科書、啓林館は全体的に大きな教科書、今使っている大日本図書はいつも通りの教科書、そういう形で、今回、東京書籍というので縦に長い教科書ということになります。これがどう使いやすいのかという点で考えますと、やはり少しでも大きい分情報量は多くなる。1ページに入っている分が、縦長にした分、見やすいなという印象を受けました。啓林館は全体的に大きくなっているのですが、こうなるとちょっと貝塚の子どもたちには見開きの情報量が多すぎるのかなという気がいたしました。今回、このような様々な形の中で、このちょっと縦長の教科書を使うことによって、子どもたちの学びがさらにどう進んでいくのかというのは追って研究は進めていきたいと考えます。全体的にバランスも良いということで、今回、東京書籍の教科書を採択したいと思います。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

理科に関しましては、当市は、東京書籍の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって理科に関しましては、当市は、東京書籍の教科書を採択することに決定いたしました。

次に音楽に移ります。意見具申をお聞かせください。志禮 義隆 学校教育課指導主事。

- 学校教育課指導主事（志禮 義隆） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

教育出版は、目次に示されている教材の配色と各ページの配色がリンクするよう視覚的に支援されており、学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。全学年で「ふるさと」が扱われており、郷土愛を育むことができる。また、1年生は同声二部、2年生は混声三部、3年生は混声四部と発達段階に応じて発展的に学習することができるようになっている。『音のスケッチ』では、動物や自然の音から音楽を作ること、生徒が興味・関心をもちながら学習に取り組めるような工夫がされている。

教育芸術社は、日本歌曲では、歌詞に合った写真が示されており、生徒がイメージをもって取り組みやすいように工夫されている。鑑賞教材の【めあて】がはっきりと示されており、楽曲の鑑賞の観点がわかりやすいだけでなく、特徴を捉えやすいように工夫されている。海外のポピュラー音楽にも目を向ける中学生の個性に応じて、その足掛かりとなる資料が掲載されており、発展的な学習をすることができるように工夫されている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、教育出版、教育芸術社の2者を推薦いたします。

- 教育長（鈴木 司郎） それではこの2者から選んでまいります。

質疑をお願いいたします。

まず、今回の学習指導要領の改訂で、特に音楽で重視されている点と、その点で使いやすい教科書はどちらになるのかを教えてください。志禮 義隆 学校教育課指導主事。

- 学校教育課指導主事（志禮 義隆） 今回の学習指導要領で改訂されている部分については、感性を働かせ、他者と協同しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてその良さや美しさを見出したりということが改訂のポイントとなります。また、音や音楽と自分との関わりを築けていけるように生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深めることがポイントとなっております。そのことにつきまして、2者ともに他の友達とも協力しながら音楽表現を生み出すということについては、掲載はされております。特に、教育芸術社では、歌唱において鑑賞、感性を働かせて他人と協同しなが

ら音楽の良さや美しさを見出すことができる混声3部については、教育出版よりも設定ページが多く扱われております。また、生活や社会の中の音楽としての仕事、音楽との関わりについて紹介するページも設定されていることや、震災の復興を願って歌い継がれている楽曲が掲載もされていることから、教育芸術社の方が使いやすく優れていると考えております。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたと思います。樽谷 栄子 委員。

○委員（樽谷 栄子） 私は教育芸術社を推薦したいと思います。その理由は、歌詞に合った写真が掲載されており、そして作詞、作曲家さんの顔も載っていたので、子どもたちは歌にも興味を示すと思います。また、海外のポピュラー音楽もあったので、中学生になると、海外の音楽が好きだったりするので、そういう点もあまり音楽に興味がない方達でも興味を示して音楽を好きになっていただけるかなと思いました。

○教育長（鈴木 司郎） 先程来おっしゃっていただいたように、教育芸術社のページ設定が、1ページの中に作者まで綺麗に入っているのです。ですから、見開き1ページを使って勉強するという点においては、教育出版の方は1ページ半で裏側に作者のことが載っていたりするので、教育芸術社の方が使いやすいだろうし、子どもたちの印象にも残りやすいだろうと思います。あと、タブレットを使ってコンテンツにいきますと、作曲家や楽団のホームページで、色々なプロフィールや実際の演奏等にアクセスでき、そういう点でも教育芸術社は割と充実している所が見受けられるなと思いました。これから、声変わりもしていく中、混声3部をやっけていながら、中学生というのは音楽の力を付けていきます。子どもたちは合唱コンクール等色々な所で混声3部をやっていますし、子どもたちの音楽に対する興味を高めながら授業を行っていく上では、教育芸術社の方が良いのではないかと思いますので、貝塚市では教育芸術社を採択したいと考えます。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

音楽（一般・器楽）に関しましては、当市は、教育芸術社の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって音楽（一般・器楽）に関しましては、当市は、教育芸術社の教科書を採択することに決定いたしました。

次に美術に移ります。意見具申をお聞かせください。西原 和隆 教育研究センター主幹。

○教育研究センター主幹（西原 和隆） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が積極的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

開隆堂出版は、『学びの地図』において、美術の全体のイメージが表されており、生徒が学習するうえで、見通しが立ちやすい構成となっている。色相環の学習をする際、黄色をもとに彩度の高低が表されていることにより、少数派色覚の生徒が学習しやすいよう配慮されている。各項目の最初のページに、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3観点について、学習の目標が明確に示されている。

光村図書出版は、表現の授業のページでは、生徒の制作過程が、発想からアイデアスケッチ、制作者の言葉まで、細かく掲載されている。鑑賞する項目の1つに、トレーシングペーパーが採用されており、それを活用することによって、一点透視図法が理解しやすくなっている。『世界の仮面と出会う』では、世界各地の仮面が紹介されており、そこに住む人たちの生活が感じられるような工夫がなされている。

日本文教出版は、「技法を教える」ことから始めるのではなく、鑑賞と表現を重ねながら、「観察の楽しさ」を重視し、主体的な学習につなげやすい構成となっている。ほとんどのページに『造形的な視点』という、吹き出しの一言があり、子どもの思考を引き出し、表現したくなるような工夫がなされている。様々な作品が原寸大もしくは大きな図版で掲載されており、また構図や技法について説明が丁寧になされているため、深い学びが可能になっている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、開隆堂出版、光村図書出版、日本文教出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは質疑に入ります。

先程も申しましたように、これからの美術の教科書についても、タブレットを子ども1人1台持ちますので、それを使った学習、鑑賞等という場面で有効な教科書とはどれになりますか。

西原 和隆 教育研究センター主幹。

○教育研究センター主幹（西原 和隆） QRコードのデジタルコンテンツなのですが、各者ともそれぞれまだ開発途中なのかなという感じはいたします。ただ、それぞれどの教科書も採用されておりまして、1つQRコードを読み取るとどのページにも行く、つまり、他の色々なページを見ることができる会社と、各ページにQRコードがあって、そのページの項目だけを見ることができる会社と、その2つに分かれていました。開隆堂出版と日本文教出版につきましては、色々な所を見られる、そして光村図書出版については当該の各項目だけ見られる、というようになっておりました。どちらが良いというのは一長一短あり、授業で使いやすいのがよいのか、それとも主体的な学び、自学自習等で使いやすいのがよいのかというのは使い方が変わってくると思いますが、そのようになっておりました。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。樽谷 栄子 委員。

○委員（樽谷 栄子） この3者を見させていただいて、一番先に目についたのが日本文教出版の表紙が子どもたちにもわかりやすく、すごく良いなと思いました。それと、中を開いて作品を見させてもらった時に、原寸大だったり、図版の大きさが子どもにはとても見やすいかなと思いました。色味もすごくわかりやすく、私は日本文教出版が良いかなと思いました。

○教育長（鈴木 司郎） この美術の教科書を見せていただいた時に、それぞれの教科書に一長一短があるなと思いました。先程来あったように、バリエーションという、少数派色覚の子どもたちを体験するための眼鏡があるのですが、その眼鏡で見た時に、開隆堂出版だけが黄色でずっと説明してくれているのです。後の会社は赤なのです。赤だと少数派色覚の子どもたちには残念ながら見えないのです。それは良いなと思ったのですが、他の所に色の名前が書いていないので、今度は逆に他の所が開隆堂のは使いにくい。だから今度、教科書会社さんが研究されるのだろうと思いながら、黄色というのは1つ良いポイントだなと思いながら見せてもらいました。ただ、他の点でいきますと、開隆堂出版のは画素数が荒いのも見られましたし、それぞれに課題があります。光村図書出版の浮世絵は、制作工程等が載っていないくて、葛飾北斎のことばかり書いている。そしてトレーシングペーパーがあって、これは使いやすいなと思います。はらべこあおむしもあって、これは誰でも知っているなと思いました。ここも良い項目もあるのですが、やはり総合的に考えた時に、これからの美術の教科書の必要性というのが、先程のようにコンテンツに行くということでかなり代用される部分もあると思います。ですから、1つは原寸大というのはかなり今後あることが大切だろうなというのと、多面的に子どもたちが考えていく中では、自分自身の作品を作っていくということが大切なのだろうと思いますので、そういう点でいきますと、日本文教出版が一番総合的に見たら使いやすいのかなと思います。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

美術に関しましては、当市は、日本文教出版の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって美術に関しましては、当市は、日本文教出版の教科書を採択することに決定いたしました。

次に保健体育に移ります。意見具申をお聞かせください。松井 大祐 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（松井 大祐） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、タブレットを活用する例として、学習の流れの写真が紹介されている。課題を解決す

るために必要な思考力、判断力、表現力等の技能を育成するための適切な創意工夫が認められる。「障害」ではなく、「障がい」で統一されていることや、絵について、右利きと左利きの両方でバランスよく描かれているなど、人権の取り扱いに配慮がある。

大日本図書は、『私たちの生活とスマートフォン』で写真や取り扱いの方法が詳しく掲載されているので活用しやすい。心肺蘇生法のやり方の解説が丁寧に記述されており、使われている写真も大きく分かりやすい。「障害」ではなく、「障がい」で統一されている。また、生徒一人ひとりに個人差があることを強調し、個人の価値の尊重に配慮されている。

学研教育みらいは、タブレットを活用した学び方の例示やタブレット上で行うスポーツ活動の自己管理などが紹介されており、取組みが分かりやすい。「課題をつかむ」、「本文と資料」、「考える・調べる」、「まとめる、深める」の4つの構成となっており、教科書にしたがって学習することで、学びを深めることができる工夫がある。コミュニケーションを重視し、実生活での例を通して自分の気持ちや考えを表現する活動が取り入れられている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、大日本図書、学研教育みらいの3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは質疑に入ります。

この保健体育につきましても、非常に少ない授業になると思います。その1時間の授業の中で完結していきながら、また中身的には子どもたちの成長にとってとても大切な自分自身の体、人とのこと、薬物、大切なことが含まれております。そういう意味で1時間の学習の中で、ねらいを持ち、まとめていく授業を構成するのに使いやすい教科書を教えて下さい。松井 大祐 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（松井 大祐） 今回、3者とも1時間での学び等にはすごく配慮され、構成や授業の流れ等についても工夫等がなされていると感じております。中でも特に学研教育みらいにおきましては、1単元につきほとんどの単元におきまして見開き2ページで構成されています。加えて、表現や記述が大変簡潔であり、読みやすく大きな字で書かれています。本文と資料とのバランスも良いように感じました。ですので、子どもたちが主体的な学び等通しながら、1時間の中で学ぶ上では学研教育みらいの構成が一番相応しいと感じております。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。西村 卓也 委員。

○委員（西村 卓也） どの社もうまくまとまっていて興味を持った内容になっているなど感じました。薬剤師の立場から見て、薬物乱用や大麻の所を見たのですが、学研教育みらいの場合は、社会に出た時に、例えば薬物に勧誘されたり誘われたりした時の断り方といった、具体的な内容をきっちりまとめてうまく書いているように思いました。私は学研教育みらいを薦めたいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） 学研教育みらいということでご意見をいただいております。学研の教科書というのは、割と踏み込んだ内容が書かれているなどお見受けいたしました。本市におきましては、性的マイノリティーLGBTのことにつきましても、積極的に学校の中で学習を現在進めております。この記載についても、本市でご講演いただいた村木真紀さんの記載がありました。性教育でも割ときっちりできるかなという視点で見せていただきました。先程、西村委員がおっしゃっていただきましたように、薬物に関しても、しっかり書かれているという点で、本市におきまして学研教育みらいの教科書を使っていくことが子どもたちにとって良いのではないかと思います。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

保健体育に関しましては、当市は、学研教育みらいの教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって保健体育に関しましては、当市は、学研教育みらいの教科書を採択することに決定いたしました。

次に技術・家庭に移ります。意見具申をお聞かせください。向山 義郎 教育研究センター指導主事。

○教育研究センター指導主事（向山 義郎） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

東京書籍は、文章、資料ともに豊富な情報量で充実した内容となっている。また、取り扱っている実習例が多く、失敗例も含めて掲載することで、生徒が基本的な技能を確実に習得できるように工夫されている。技術分野では『技術の匠』、家庭分野では『プロに聞く』というコラムが適切に配置されており、社会とのつながりを感じながら、好奇心を持って学習できる。『Dマークコンテンツ』に接続すれば、教科書のデジタル情報の一覧にアクセスでき、そこから必要な情報を選択して学習できる。

教育図書は、図や写真を適切に配置することで、ユニバーサルデザインに配慮されている。また、教科書本文の文字が大きめで、内容・要点については精選されている。技術分野では、生物育成に関する内容を充実させ、植物だけでなく、動物の育て方に関する内容も豊富である。家庭分野の食育とも関連させながら学習を進めることができる。技術のE編では、『夢を叶える技術』というテーマで、災害や障がいについて問題解決を図るページがあり、発展的な学習につながる。

開隆堂出版は、各題材にQRコードが豊富に配置されているので、学習内容に関するデジタル情報に直接アクセスできる。また、ICT機器を有効に使った学習活動を展開しやすく、主体的な学習を進めやすい。単元の導入の発問が、抽象的でなく焦点化されたものであるため、思考の分散化を防ぐことができる。また、学習した知識・技能と関連づけて学習を進められるため、深い学びにつなげることができる。身近に栽培できる野菜が取り扱われており、実習例も豊富である。また、生物育成について多岐にわたる情報があるので学びの広がり期待できる。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、東京書籍、教育図書、開隆堂出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは、質疑に入ります。田中 廉久 委員。

○委員（田中 廉久） 技術の方で、プログラミング教育がかなりベースに敷かれていると思うのですが、貝塚市ではこの3年間で、どのレベルまで授業を構築していく計画なのですか。

○教育長（鈴木 司郎） 向山 義郎 指導主事。

○教育研究センター指導主事（向山 義郎） プログラミング学習については、学習指導要領が改訂されたことによって、小学校の方で算数、理科、社会等で、もしくは総合的な学習で取り扱われることとなっております。来年度から実施予定の中学校新学習指導要領では、技術・家庭の中の技術分野において、プログラミングを学習することになっています。3年間をかけて、特にどの学年に配置するというわけではないのですが、3年間を見通して学習するということになっています。これまでも、プログラミングについては、問題解決学習ということで、子どもたちは勉強してきております。ただ、新しい学習指導要領については、ネットワークを通した双方向性のあるプログラミングについて学習するというので、イメージとしては、色々な方法がありますが、LINEやチャット等、こちらから何か発信したときに向こうから何か返ってくるというようなプログラムについて、論理的に考えていく力を付けていく必要があります。その点から考えますと、東京書籍については、端末にプログラミング手帳がありまして、スクラッチ、ドリトル、Javaの3種が新しく取り扱われることとなっております。全6ページあります。教科書の中の、実習例もとても充実しております。但し、Dマークコンテンツのプログラミングについては、あまり充実しておりませんでした。それから、教育図書については、3者の中でページ数が一番充実しておりまして、カラーで大きくて見やすく、ユニバーサルデザインにとっても配慮したつくりとなっています。「追いかっこゲーム」「数当てゲーム」等、子どもたちが興味を持つようなものもございました。但し、QRコードからはすべてZIPファイル、圧縮ファイルに繋がるようになっておりまして、本市が来年度使用しようとしているタブレットで使いやすいかどうかという所は、少し疑問が残るところです。開隆堂に関しては、同じように端末でスクラッチ、ドリトルというソフトウェアを使いまして勉強することになっております。双方向のプログラミングについても、学習するようになっておりまして、開隆堂出版の大きな特徴は、課題をまず発見すること、それからそれに対してプログラミングをすること、最後に改善するというので、PDCAサイクルを重視した教科書の作りになっております。開隆堂出版もQRコードが充実しておりますので、プログラミングの所からアクセスできまして、そこから解説や、改善例も載っておりますし、主体的に学べるようになっておりました。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。田中 廉久 委員。

○委員（田中 廉久） 家庭と技術を含め、私は開隆堂出版を推薦します。理由として、私が一番わかりやすかったのが、「衣・食・住」の生活の章の、「食」についてです。まず、安全に調理、実習をするためにということで、衛生マークで注意点が示されて、事故防止に配慮されています。それと、調理の実習についてですが、材料と分量、作業が良くわかる写真や挿絵が多く、調理意欲が湧くと思います。それと調理方法ではQ&Aでさらに理解を深めることができる。3つ目には、各章の終わりに「先輩からのエール」ということで、コラムがあります。これは、将来子どもたちがどの職業を目指すのかということに非常に参考になるのではないかなと思います。それと、学習のまとめがあって振り返ることができる、それも良いなと思いました。4番目ですが、「豆知識」という簡単なコラムで知識を深めることができる。このように色々なことに工夫されていて良いなと思いました。技術の方では、作業の安全としても安全マークを付けて色々配慮されていました。重要部分については太字で記されて、本当にわかりやすいと思いました。さらに知識を深めるために「参考」もあり、創意工夫がされておりました。そういう観点から、私は開隆堂出版を推薦したいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） 開隆堂出版というご意見をいただきました。デジタルコンテンツにつきましても、開隆堂出版の量、どのようなものをデジタルコンテンツで扱っているのかという視点、そういう点では非常に使いやすく、そして細かい所に配慮されているなど感じます。あと、教科書を見開きで見た時に、やはり実習教科になりますので、家庭科につきましても料理等の実習がうまくできるように見開き2ページでバランスよく作られているなど感じたところでございます。そして、先程来出てきております、SDGsの問題につきましても、これからは色々な教科で取り上げながら考えていくことが大切で、この技術・家庭についてもこの視点というのはとても大切になってくると思います。その点につきましても、開隆堂出版が一番充実した内容となっているなど見させていただきました。

そのような事から、技術・家庭につきましても開隆堂出版を使いたいと本市では考えております。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

技術・家庭に関しましては、当市は、開隆堂出版の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって技術・家庭に関しましては、当市は、開隆堂出版の教科書を採択することに決定いたしました。

次に英語に移ります。意見具申をお聞かせください。赤阪 朋子 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（赤阪 朋子） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

開隆堂出版は、毎「Program」のはじめに「Goal」が示されており、その「Goal」が達成できているか、「Our Project」での表現活動で確認できるように設定されている。「Our Project」でペアやグループでの活動を取り入れ、4技能5領域を統合したパフォーマンス活動が設定されている。また、「Scenes」でマンガでの文法導入で、ユーモアを含むストーリーが有り、意味と場面設定がわかりやすい導入ができる。レッスンの構成が、見通しを立てて学習に取り組み、学習指導要領の3観点に対応した授業の流れがあり、「指導と評価の一体化」が図れる。デジタル教科書に録音機能を加える予定があり、タブレットでパフォーマンステストを確認するなど、効率的に授業の運営と評価をできる可能性がある。

三省堂は、ひとつのレッスンの構成が、見通しを立てて学習に取り組めることやそれぞれが新学習指導要領の3観点に対応していることから、学習の定着がスムーズに図れる。教科横断的な関連を意識した内容を取り扱っており、リンクして学習が進めやすい。自学自習ができるよう、付録教材の活用や二次元コードの記載により、より深い学びを定着させることができる。

光村図書出版は、ストーリーが3年間でしっかりとつながっているのも、興味を持って読み進められる。どのような目的、場面、状況により、その英語が使われているか本文を通して理解できる。

巻末で「Story Retelling」や帯活動で使える教材が豊富で、「You can do it.」では、技能統合型の言語活動もできる。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、開隆堂出版、三省堂、光村図書出版の3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは、質疑に入りたいと思います。

まず新しい学習指導要領では、4技能5領域となっております。「話すこと」が2つ、「発表（スピーチ）」と「即興でのやりとり」というのがありまして、5領域となっているところ、これは今までも言われております「使える英語」ということが重視されているのだと思いますが、その点で相応しいと思われる教科書を教えて下さい。赤阪 朋子 学校教育課主幹。

○学校教育課主幹（赤阪 朋子） 特に、即興でのやりとりについては、どの教科書も積極的に取り入れて、決まったフレーズを使うことだけでなく、その場に応じたコミュニケーションがどうしても必要となる場面の設定が意識されています。例えば、光村図書出版では、言語使用の場面、目的がはっきりするように本文のストーリーが等身大の子どもたちにリンクするように設定されています。開隆堂出版は、「Interact」や「Our Project」で、子どもたちが興味、関心を持って学習に取り組めるような題材が用意されており、4技能5領域を統合したパフォーマンス活動を通じて、子どもたち同士の学び合いを促す工夫がされています。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。樽谷 栄子 委員。

○委員（樽谷 栄子） 私はこの3者の中で、今も小学校で使われている光村図書出版が良いかなと思います。なぜかと言うと、使い慣れているということと、ストーリーがあり、ドラマになっているから子どもたちが興味を示し、英語にも興味を持ってもらえるかなと思っているので、私は光村図書出版をこのまま使えたら良いかなと思い、推薦したいと思います。

○教育長（鈴木 司郎） 光村図書出版ということで、他にご意見はございませんか。浅田 真由美 委員。

○委員（浅田 真由美） 私は開隆堂出版の「Our Project」での表現活動では、ペア学習やグループでの活動を取り入れてとあります。友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、主体的、多様的で深い学びを促す工夫があつて、コミュニケーション能力の育成、特に即興でやりとりする力の育成を意識した点から、開隆堂出版の方が貝塚の子どもたちに相応しいのではないかと思います。

○教育長（鈴木 司郎） 他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

開隆堂出版と光村図書出版、2つのご意見をいただいたところです。光村図書出版は小学校の子どもたちも使っておりますし、小学校で光村図書出版を採択した時には、文科省の「We Can」と同じ作りになっているという所で、こちらの方が使いやすいのではないかという事がありました。それを中学校でも使っていくと、その流れのまま行けるという所では良いのかなと思います。光村図書出版でのストーリー性というのは、非常に面白いなと思って見ていたのですが、修学旅行先から家に携帯で電話をするという画面が出てくるのですが、これについては本市としてはそういう指導はしていないという所では、教科書と実生活に相違が生じるかなということを感じたりしております。開隆堂出版の「Our Project」というのは非常に良くできているパフォーマンスだなという見方をさせていただいております。それぞれに良い所があるのですが、もう1つの三省堂についても非常に他教科との関連も良いのですが、やや文章が長く、貝塚の子どもたちには量的には多いかなというイメージを持ちました。

私としては開隆堂出版かなと思っておりますが、開隆堂出版と光村図書出版のご意見がありましたので、ただ今からこの2者で採決を行うことといたします。挙手により採決いたしますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

開隆堂出版の教科書が良いと思われる方は挙手願います。

光村図書出版の教科書が良いと思われる方は挙手願います。

4対1となりましたので、英語に関しましては、当市は、開隆堂出版の教科書を採択することいたします。

それでは、最後に道徳について選定したいと思います。意見具申をお聞かせください。向山 義郎 教育研究センター指導主事。

○教育研究センター指導主事（向山 義郎） 各者とも、学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるように内容が編成されています。

日本文教出版は、いじめと向き合う項目が、各学年に複数回設定されており、教材やコラムで視野を広げられるような多様な教材が組み合わされている。学習の進め方が提示されており、「プラットフォーム」では教材に関連する資料が充実している。「考え・議論する」学びを展開しやすい。道徳ノートがついており、ワークシートとして活用できる。また、ノートに記録をとる際に記述だけでなく、学習したことを段階的に自己評価できることで、道徳的な成長にも気づくことができる。

学研教育みらいは、「持続可能な社会」、「キャリア教育」に関して2つの教材を連続して実施するユニット学習が組み込まれているので、学習の深まりが期待できる。中高生の作文、スポーツ選手、新聞記事や漫画など、生活に密着した教材が充実していることで、さまざま角度から議論を展開できる。読み物資料のあとにワークシートとして活用できるページや、議論を深められる問いが設定されている。

廣済堂あかつきは、本冊と別冊の分冊構成にすることで、資料から離れた授業展開を可能にするなど、授業の組み立てに幅を持たせることができる。読む力を重視した教材が多く、これまでの名作を引き続き採用するとともに、社会の変化に伴って人権や情報モラルに関する教材も掲載されていることで、現代の課題と向き合うことができる。A B版の教科書サイズを採用することで、1年生ではゆとりのある紙面構成となっており、全体としても行間の統一、カラーユニバーサルデザインの採用等、誰にでも見やすいつくりとなっている。

各者ともいろいろな工夫がされていますが、上記の点において優れていると考えます。

よって、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつきの3者を推薦いたします。

○教育長（鈴木 司郎） それでは質疑に入ります。田中 廉久 委員。

○委員（田中 廉久） 各者読ませていただき、私が感じたことは、歴史的な偉人、伝記ものが少ないなど感じました。先生方はどう思われますか。

○教育長（鈴木 司郎） 向山 義郎 教育研究センター指導主事。

○教育研究センター指導主事（向山 義郎） 古い教材でも良いものがありますが、昨今話題になるようなスポーツ選手や漫画ものであるといった、流行り物は学研教育みらいに比較的多く取り上げられています。偉人、伝記ものの道徳の教材としては、多面的多角的に考えてバランスを取ることが重要だと思いますので、各者ともいろいろな教材が入っているという認識をしております。

○教育長（鈴木 司郎） ほかに質疑はございませんか。

私の方から、特に今日的な話題であるいじめやSNSの問題、このあたりについて各者の特徴や、ここが使いやすいなというようなことがあれば教えて下さい。 向山 義郎 教育研究センター指導主事。

○教育研究センター指導主事（向山 義郎） いじめの問題については、これまでも、これからも大きな課題で、道徳教育の中では大きく取り扱わなければならないと考えています。それが体系的なものとなっていること、内容が充実されていること、問題解決的な学習を取り入れるといった学習方法が必要となってきております。いじめについては、各者とも3学年でバランス良く設定されております。各学年、平均的に4本から6本くらいの読み物が取り扱われておりました。いじめとSNSとの関係性も強いということがあり、情報モラルを取り扱った教材も各者適切に設定されておりました。日本文教出版においては、情報モラルの後に「プラットフォーム」というコラムが必ず設定されておまして、その中でSNSやインターネットの情報発信、個人情報、匿名性の問題点等、様々なことを考え議論できるような展開となっておりました。学研教育みらいにおきましても、情報モラルの後に「クローズアップ」というコラムが必ずあります。ネット依存に関することや、携帯電話の活用期間等の資料等がたくさん印字されていますが、資料提供というようなイメージが強いという印象があります。廣済堂あかつきについては、コラムはなく、読み物が長く深いものになっておりますので、

教材を中心として深く考えられる教科書であります。いじめについて考え議論するといった観点から考えますと、日本文教出版と学研教育みらいが情報モラルの読み物の後に必ずコラムがございますので、資料によっては読み物で学習する場合がありますし、読み物から離れて考え議論をするという展開が有効な場合がございますので、そういった意味で日本文教出版のコラムが非常に使いやすいと感じました。

○教育長（鈴木 司郎） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは質疑はないようですので、ご意見を伺いたいと思います。田中 廉久 委員。

○委員（田中 廉久） 各者の教材は素晴らしいものがありました。一昨年、昨年から各者大きな差異はありません。本当に甲乙つけ難く、苦労しましたが、私は日本文教出版の教科書を推薦したいと思います。推薦理由は3つあります。1つ目ですが、道徳科での学び方について、他者にはない「気づくこと」を挙げておられます。私たちは家庭環境や社会環境、自然環境の違いで、気づきや考えが大きく変わってきます。気づいたことを考え、議論し合って視点を深めていき、さらに実生活に子どもたちが活かせるようにする。2つ目の理由は、学習の進め方、グループで話し合う学習を何回か実施して学習を深めるようにしております。それと、体験的な学習ができるように工夫されていると思います。さらに考えや視野をコラムとして「プラットフォーム」を設けている。さらに深めるということで、学習のふり返りを助けるという「参考」という項目があります。例えば、杉原千畝さんのユダヤ人の悲劇とかそういう参考のコラムがあります。さらに「私の生き方」ということで、人生の先輩からのメッセージということで、例えば山中伸弥先生からあなたへ「明確な目標を持つこと」「一生懸命努力をすること」、これも子どもたちにとって参考になると思います。さらに、難しい語句の説明が、下段に青色の三角印を以てされていてとてもわかりやすい。そういう点も創意工夫されておりました。感心しました。3つ目の理由としまして、昨年も申し上げたと思うのですが、貝塚市の教育大綱には、家庭教育の大切さを謳っております。家庭は教育の原点になっているのです。この道徳ノートの活用ということで、生徒、学校、教職員、家庭、保護者、また反対に家庭から生徒、学校へと繋げていくという、子どもたちや先生、保護者が一緒に道徳を学ぶことが大切だと私は考えます。この保護者の方々にも道徳の教科書を是非、読んでいただきたい。家庭の団欒の中で、この道徳ノートの話題が出てくれば、家庭教育の向上に繋がります。以上の3点をもちまして、日本文教出版を推薦させていただきます。

○教育長（鈴木 司郎） 今、田中 廉久 委員の方から、日本文教出版に関して詳しく意見を述べていただきました。現在、日本文教出版を使っているのですが、道徳ノートにつきましては、今学校で使っているのも高く評価いただいた上で、使っていてノートは必要だというのが貝塚の現場の意見です。今回、日本文教出版のノートにつきましても、今までありました発問といいますか、これについて答えなさいというような書き込み欄が全部削除されていて、学校の中でそれぞれの教師が課題を書く、それについて子どもたちが自分の思うことを書けるということで、さらにノートも使いやすくなっているなど見せていただきました。子どもたちが道徳の問題を自分の問題として捉え、深く掘り下げていって生き方に繋げていくという点で、先程、田中委員がおっしゃった、家庭と道徳ノートを使って繋ぐということも含めて、これは教育委員会としての宿題もあるのだろうと思います。そういう課題も含めて再度、日本文教出版の道徳の教科書を使って、家庭と、そして地域を繋ぐ、そして皆で考えていく、そういう道徳をできたらと思います。

他にご意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見も終わったようですので、これより採決いたします。

道徳に関しましては、当市は、日本文教出版の教科書を採択することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって道徳に関しましては、当市は、日本文教出版の教科書を採択することに決定いたしました。

全ての教科の審議が終わりました。先程来、申しておりますように、今回デジタルコンテンツについてはこれからの課題だと思っておりますので、またこれにつきましましてはしっかりと見ていながら、教科

書とどう連携させていくのか、教育委員会としてしっかり考えていきたいと思ひます。それぞれの教科書が、レベルが非常にアップしており、それぞれが課題をしっかりと見据えながら作っていただひているので、選ぶのがとても大変でしたが、今回はそういう意味では、半分の教科の教科書採択が変わっております。新たな教科書となりますが、しっかりとこれを使って授業をしていきたいと思ひます。

これをもちまして、中学校教材用図書の採択の件を終了いたします。

○教育長（鈴木 司郎） 次に日程第5、議案第32号、令和2年貝塚市教育委員会会議第4回臨時会会議録承認の件を議題といたします。

議案第32号 令和2年貝塚市教育委員会会議第4回臨時会会議録承認の件

○教育長（鈴木 司郎） お諮りいたします。令和2年貝塚市教育委員会会議第4回臨時会会議録の朗読は、省略したいと思ひます。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって、会議録の朗読は、省略することに決定されました。ただいまから質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑は、ないものと認めます。

これより、ご意見を伺ひます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ご意見もないようですので、これより採決いたします。

本案を承認することに、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認めます。よって本案は承認することに決定されました。

これをもちまして、令和2年貝塚市教育委員会会議第5回臨時会を閉会いたします。

午後3時48分 閉会

貝塚市教育委員会教育長	
貝塚市教育委員会委員	
貝塚市教育委員会委員	